

## 保育実践における子どもの発達と保育者の能力についての一考察 — 折り紙「柿」を通して —

長 根 利紀代

### I はじめに

近年は学級崩壊が小学校にまで及び深刻な現状にある。それは報道のみならず、身近な小学校教員から直接に話を聞く機会を得たことで、普通の小学校において低学年にも稀ではないことを知り大きな衝撃を受けた。その多くは、座ってられない、話が聞けない、我慢が出来ない、やる気がない、人間関係など、勉強以前の基本的な生活態度が問題になっている。大学においても、学生の授業態度は毎年取り上げられ、聞く態度や理解力、学習意欲、人間関係などの問題が浮上する現状がある。幼児教育が「人間形成の基礎を培う」のであるならば、園生活を通して、個々の子どもの生活能力全体を視野に入れて、個人的のみならず、集団生活の基本的な生活態度が身に付くよう援助することが大切である。それは、日々の保育の中で培われていくものであることから、家庭教育のみならず、幼児教育現場にも見直し求められるのではないか。園生活の中で自由に思いのままに活動することばかりが中心になりすぎないように、卒園後の学校生活を視野に入れて集団生活における生活の仕方や子どもの集中力などもしっかり育てておくことは大切であろう。それには、入園から卒園までの保育計画において、バランスの取れた教育環境を整え、子どもの生活のリズムと生活の流れを一貫して指導し、限りある時間を有効に活用できる保育の計画が望まれる。そして、それらを実現できる保育方法や保育者の力量が問われることになる。そうした保育において、子どもの発達に必要な経験を見通し、保育のねらいに沿った媒介として効果的な教材を選択することが不可欠である。そこで、本研究では子どもの発達と保育実践の在り方について考察するため、筆者の経験した過去の保育から VTR を通して、3 人の「柿の折り紙」の実践を中心に保育者の能力と子どもの発達とのかかわりについて研究する。折り紙は、

集中力と理解力、根気など、結果が表れやすいことから、子どもの発達やその課題、保育者の力量とその問題点が把握できる教材であるとして取り上げた。

### II 研究の方法と内容

本研究は折り紙を活用した保育の実践事例を中心に分析する。方法としては 3 歳児 1 クラスで当日登園した 22 名を 3 グループに分けた 3 人の保育者による実践事例である。グループ分けは子どもの特性や個性、能力など大体均等に行き渡るよう配慮し担任が行った。本実践は、実習生の研究保育として学生の希望で取り組んだが、職員の研究保育も兼ねることとし VTR に収めた。そして、そこから、保育の流れ及び所要時間、保育者の活動、子どもの姿を調査し、それぞれの保育者の指導法（説明とイメージ、子どもと保育者の位置関係、言葉かけと行動）とそれに対する子どもの姿、折り紙の指導結果などから考察する。また、折り紙（paper folding）の意義、保育教材としての意義、教師の役割と認める援助なども視野に入れ、様々な実践の場面における子どもの姿の読み取りと保育者の援助との関わりについて比較することで「折り紙」を通した子どもの発達を支援における保育の方法を研究する。

#### 〈グループ分け〉

1. グループⅠ－対象児 5 名（男児 2 名、女児 3 名）担当実習生（2 年次）。対象児人数は、学生の希望とした。
2. グループⅡ－対象児 7 名（男児女児）担当 3 歳児担任（保育歴 2 年）。対象児人数は、担任の希望とした。
3. グループⅢ－対象児 10 名（男児女児）担当筆者（保育歴 22 年）。残った子ども全員とした。

### Ⅲ 結果

#### 1. 折り紙 (paper folding) の意義

折り紙は、紙を折る古来からの日本独特の芸術であり、遊びである。鶴など伝承折り紙や創作折り紙があって、折ったものに意味づけをする象徴的なものや紙飛行機、紙風船など手作り玩具として親しまれたが、形式的で子どもの個性を伸ばさないという否定的な見解もあった。しかし、伝承文化を伝える意義や手、指の運動機能を育てる遊びで、水や砂のように働きかければ変化する素材の役割を持ち、何度でもやり直すことができる。さらに、誰でも手順通り折り進めば一応の形を作り上げることができ、大人から子どもまで何人でも一緒に遊べて、コミュニケーションも図れる。そして、道具も要らず、何時、どこでも手軽に作って楽しめる活動的な遊びの展開も期待でき、さらに、素材も形の決まった教育折り紙に限らず長方形や丸型、新しい模様や色柄を選択でき、作るものに合わせて様々な大きさや厚さなど身近な廃材も利用して様々な創造性や感性の発達を刺激できる。

#### 2. 保育教材としての意義

保育現場における「教材」は「保育教材」として「保育のねらいを達成するため、幼児の発達段階に応じた保育者と幼児間の媒体であり、その媒介をして、保育活動を展開させる材料としての役割を果たしている。また、人格形成に重要な意味をもち、幼児期の子どもの自立性、社会性、創造性などを培養していくための、極めて大きな役割を担っている。折り紙は、発達とねらいを考慮して選択することにより、集中力や理解力を働かせれば誰もがそれなりの成果を手にすることができる。折り方の基本型は伝承折から学ぶ必要があり、折り目正しく折ることに終始して模倣学習に終わらぬよう留意せねばならないが、折る子どもの発達に見合った指導法により、想像力や造形感覚、色彩感覚を刺激し、自立性、思考力、社会性や生活態度などを育てる発展的な指導法を工夫できる。子どもの発達に必要な経験は、様々なバランスよく環境の構成を行うことから援助していくことになる。自由でのびのびと活動的に言動したり、豊かな想像性や個性の発揮を求めるなら、

そうしたねらいに最もふさわしい教材や保育方法を選択して実践するべきである。折り紙には折り紙独特の教育があることを考慮し、その効果を充分発揮できる保育の方法を研究し適切な援助をすることが重要である。

#### 3. 教師の役割と認める援助

教師の役割の中には、子どもの理解者として幼児のこれまでの生活や遊びの歴史を重ね合わせることでその子に必要な援助を見極めることが求められている。「折り紙」を媒体としての保育は、個々の子どもの発達を家庭や地域など入園前後の生活体験や発達の状況を把握し発達の見通しをたてて、子どもが示す活動の読み取りから教育効果を研究することは重要である。保育者の「認める援助」として「幼児が自分で努力したこと、工夫したこと、葛藤や挫折を乗り越えたことなどをあたたかく受けとめ、ともによるこんだり励ましたりする援助のあり方」と、「その子の生活への取り組みの経過を細かくとらえ、どんなことを認めるのかを具体的に伝えることが必要」とし、「保育者の気持ちを幼児に伝える表現力も豊かにしていく努力が望まれる」と述べられている。適切な援助が実現できる保育者の感性と実践力が問われることになる。

#### 4. 実践事例 — 「柿の折り紙」について

(1) 時期：1990年2学期 10月

対象：3歳児22名

(2) 全体的な子どもの姿

2学期となり、園生活に溶け込んで楽しむ様子が見られ、それぞれがその子なりの生活の仕方やリズムを身に付けてきた。3歳児全体的には明るく楽しそうに生活する姿が見受けられるが甘えの傾向が強く、動きもおっとりとしているがけじめがないのが気がりである。また、個々の子どもの生活態度や遊びに発展性や進歩があまり見られない。

(3) 各グループの構成と子どもの主な特徴

○グループI：対象児10名（A子、Yu男、N子、S子、M子、T子、Ym子、K助、Er子、Ya子）

A子は思慮深く意志が明確で能力も高い、Yu男は理屈やで一人よがり、我儘だが人のよ

い優しい面がある、N 子は意地を張るが落ち着いて理解力がある、S 子は自己主張が強く落ち着きがないがやる気はある、M 子気弱な面があり活動的ではないが順応性がある、T 子は末っ子で甘やかされておっとりしているがしっかりした面がありやる気もある、Ym 子、おとなしいが一生懸命取り組もうとする、K 助は一人っ子で幼く、こだわりやだが人のよい面と素直さがある、Er 子は気が強くやる気がある、Ya 子は甘やかしがひどく何事にも経験不足で受身

○グループⅡ：対象児 7 名 (N 子、R 太、A 子、Y 子、K 男、Y 也、At 子)

N 子はおっとりしているが一通りのことは出来る、R 太は担任が大好きで頭がよいが運動的なことは苦手、A 子は登園拒否が続いた甘えん坊で何でも受身だが案外にしっかりしている、Y 子は何も考えようとしなくて落ち着きがない、K 男は末っ子で甘やかされているが素直でやる気があり何でも楽しめて前向き、Y 也は末っ子で活発だが持続性がなく時に乱暴なこともあるが優しくお人よし、At 子は温厚で落ち着いてじっくり取り組む

○グループⅢ：対象児 5 名 (K 子、Yu 子、M 子、K 男、M 男)

K 子は気が強いが理解力がある、Yu 子は非常に頭の回転が速いが気が強い、M 子は甘えたがるが自分でできる、K 男は末っ子で甘やかされているが状況判断が出来る、M 男も末っ子で

甘えが出やすいが本来は活動的でやる気がある

5. 実践記録

〈折り紙を活用した保育実践〉

「柿のバッグ」の材料及び手順

イ. 用具：橙色の中盤折り紙、もち手用の緑色の折り紙、各自の道具箱（クレパス・はさみ・糊）

ロ. 柿のバックの折り方（図 1）

ハ. 折り紙の結果——子どもの作品（図 2）

〈環境設定〉

- あらかじめ机の配置は、いずれのグループも人数に即した机の数を用意し、保育者用の机に向かってコの字型になるよう保育者が準備し子どもたちが自分の椅子を持ってきた。また、保育者は子どもを見渡せる中央に机と椅子を配置した。
- グループⅠ、グループⅡ、は保育者の机の上には作業が見やすいようあえて何も置かず子どもも後から道具箱を取りに行くこととした。始まりは外遊びの後だったことから、チャイムで入室しトイレに行った後、自分の机に伏せて心を静め、子どもがトイレから全員集まるまで保育者が歌を歌って子どもが落ち着いて待つ雰囲気を作るよういつもの習慣を取り入れた。
- グループⅢの環境設定はグループⅠ・Ⅱと同様であるが、最初から机の上に道具箱を置くことにした。



図 1 柿のバックの折り方

グループⅠの作品 (10 名分)



グループⅡの作品 (7 名分)



グループⅢの作品 (5 名分)



図 2 折り紙の結果——子どもの作品

〈実践記録〉

それぞれ活動の区切りになる項目について、保育者の援助、子どもの姿共に、①、②、③で示してある。

表1 実践記録 I

保育の流れ及び 所要時間	保育者の活動		子どもの姿
	言葉によるもの	行動によるもの	
<p><b>導入 (180 秒)</b> 本物の柿と折り紙の柿を比較し、形や折る工程のポイントに気が付き、その子なりに作品の出来上がりイメージができるようにする。ここでは物造りに取り組む基本的態度を自覚できるようにする。</p> <p><b>折り紙を配る (30 秒)</b> 配る前に机の上の物の置き方(道具箱)を自分で気付き改善出来るようにする。基本的な挨拶の確認をする。言葉がけにより自分や友達の声から望ましい答え方をそれぞれ模索する。挨拶により折り紙を受け取ったことを自覚する。</p> <p><b>説明① (10 秒)</b> 親しみやすい言葉と動作で丁寧に説明し、一人一人が集中力を持続できるように配慮。</p> <p><b>子どもの活動① (40 秒)</b> 子ども一人一人がやるべきことが具体的に見出せるようにする。</p>	<p>①はい、お手ではお膝。おはようございます。まー、なんてお行儀のよいお友達なんでしょ！今日は先生といいもの作ります。</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>②今日はこの柿をみんなで作ります。但し、お目めのいい人、お耳のいい人、お行儀がいいNチャンみたいなきれいな人が一緒にやりますからね、気をつけて頂戴ね。</p> <p>③まず、この四角い紙からこの形に変身します。で、今日はね、この四角い紙で作りますよ。このほら、ヘタのところ…(子声)うん、色紙で作るのよ。このヘタのところ面白い色だね、先生の色とちょっと違うけれど、何色かあとでみんなのクレヨンから探してもらおうからね。</p> <p>④じゃあ、みんなにどうぞって言ったら、ありがとうって言えるかな？お道具箱は机の上のほうにおいてね。そうそう Yu 男くんが上手に置いてるわ。ああいうふうにおいてください。君、もう少しお机の端っこまで、そう、落ちないように。</p> <p>⑤はい、どうぞ、そういいお声ね～。はい、どうぞ。はい、…。はい、どうぞ、上手。はい、どうぞ、うまいな～。はい、どうぞ、まー、きれいなお声ね。はい、…。あら、お手々どこ？はい、どうぞ…。はい、どうぞ…。そう。上手ですね、みんな。はい、そうです。お！いいお声が出たよ！（子声）大丈夫です。ありがとうございました。</p> <p>⑥さて、それではね、1 番最初は何から作るのか、よーくお目めを2つ、真ん丸くしてみてくださいよ。では先生もみんなと同じ…お話を聞くと手はお膝よ。それでは、今、みんなの机の上にはオレンジ色の紙がありますから…見てくださいよ。チクチクさんとチクチクさんは仲良しさん！頭を押さえて…アイロンさん、アイロンさん！そしてこの曲げたところをアイロンかけますね。Yu くん手はどこ？そしてこんな風になったら成功（説明①）。</p>	<p>①着席し全員が頭を起こしたか姿勢などをチェックする。</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>②言葉だけでなく子どもの中からモデルを示し基本的態度を明確に伝えるが、その際、モデルに指名する子は認めることで集中力を強化する必要のある子どもを指名する。</p> <p>③橙色の色紙を示す。実物と作品を比較しながら作品のヘタの部分を示すなど紙を配ることで時間的間を空けないよう子どもの想像力をひきつけておく。</p> <p>④折り紙を手にはさながら立ちあがる。置く位置が整えられた子どもを示す。道具箱の位置が整っていない子どもに指導。</p>  <p>⑤一人ずつ子どもの正面から折り紙を配る。一人ずつ互いに答え方を確認できるように言葉がける。後ずさりして保育者用の机にぶつかるが子どもからの心遣いの言葉に礼を述べる。</p> <p>⑥着席しながら指を丸めて目を作りながら全員の姿勢を確認する。作業の手元が見やすいように保育者の机の上には何も置かない。全員の顔を見て集中しているか確認しながら折り、</p>	<p>①全員顔を起こして手は膝にして「おはようございます」と声を揃えて答える。</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>②M子 A 子・Y 子・S 子・N 子・Yu 男は机の上に手を置いている。Ya 子は後ろ見たりしている。K 助はほほ杖が続く。保育者の言葉から気付き A 子は自分から急いで手を膝にする。</p> <p>③うなずく子や「変身！、葉っぱが貼ってある、色紙で作るの？」と言う子がいる。</p> <p>④全員手を膝にする子どもたちは道具箱をチェックするが特に K 助は身を乗り出し位置を直す。</p> <p>⑤子どもたちは全員ありがとうと答えるが Ya 子の声が小さい。K 助は手を膝にするがありがとうの声は小さい。S 子「だいじょうぶですか？」と言う。</p> <p>⑥全員手を膝にして集中している。途中 Yu 男が手を膝にしていない。保育者の言葉を受けて他児が「お膝！」と答える。</p>

<p>競争心を刺激し緊張感とやる気になる言葉や擬音を多く用いて作業のイメージ化を助け、楽しさを演出する。できるだけ個人名を呼び、頭をなせるなどで認めることで自信とやる気を引き出す。子どもの依頼心に注意し必要以上に本人や作品に触れないことや同じところに長く留まらないよう心がける。</p> <p><b>説明② (45 秒)</b> 説明の前には姿勢を確認する。子どもがとっつきやすい擬音を使い、理解力のない子どもにも動作を誇張することで記憶に残りやすいよう配慮。語尾や動きにけじめをつけテンポよく動きスピード感を出す。</p> <p><b>子どもの活動② (20 秒)</b> 全体的に子どもたちの動きにメリハリがなく、テンポが悪いので、進め方にリズムカルな雰囲気を出せるような言動を心がける。できるだけ細かく子どもと関わり安心して取り組む態度を保てるよう配慮。常に子どもは自</p>	<p>⑦はい、やって下さい！ さ、誰が速いか！ そう、そうです。よく分かりました。そう、あ、上手だな～。そう、S ちゃん、ピンポン。K 助くん、上手いな～。そう、Ya 子ちゃん、ここまできて。アイロンさんは？ アイロンさん！（子どもの声を受けて）キュッキュッキュアイロン…あ、T 子ちゃん、上手い、きれいだねー。S 子ちゃん上手ですよ～、はいここ押さえて、アイロンキュッとかけてちょうだい。ぺっちゃんこかな？ お口開いてこない？ ペったんこ！ なったかな～？ アイロンゴシゴシゴシゴシ。Ya 子ちゃんお口がパクッと開いちゃうかな！ もっとアイロン、ウ～ン、イヤ～と…。さあ、出来た！（子どもの活動①）</p>  <p>⑧では、次！ 今度はちょっと難しいけど、お目めがよーくこっちを見ていた人はすぐに分かります。K 助くん、見て下さい。今お手てどこだっけ？ 三角のお顔に頭のとっぺんがチクチクさん。このチクチクさんを2枚一緒にね、皆さんにご挨拶するの。「おはようさん」もう一回やるわね「おはようさん」（説明②）。挨拶したまんまね～アイロンかけますとこんな格好に… Y 子ちゃん！ …なっちゃった… M 子ちゃん！（説明②）</p> <p>⑨はい、やって下さい。どうぞ！ こんにちは～…！ 2枚一緒よ！ 2枚一緒にまっすぐよ～。そ、もう少したくさんがいいかな？ もうちょっとたくさんしてあげて、お顔もう少したくさん折ってくれる？…あ、分かった！ ちょっとストップ！ そうそうそう。あのね～、みんなね～、こんなにちっちゃなお顔なの。だからね、もう少したくさんにしてちょうだい。もう少し大きなおにぎり…そうそう。今日お昼ご飯にね、おにぎり…そうそう、上手。ピンポン、ピンポン、ピンポン、ピンポン、そう、上手でしたね。（子どもの言葉を受けて）できた、できた、できた、すごい！ はい、Ya 子ちゃんそれでいいよ、そう、Y 子ちゃんそれでいいですよ～。アイロンかけてあげてね。速いね、みんな。青組さん（年長）みたい。（子どもの活動②）</p>	<p>どうするのか動作を強調して示す。折り紙を折り、出来上がった形が全員によく確認できるよう端から端まで子どもの視線をチェックしながら見本を示す。</p>  <p>⑦机の前を巡回し進行具合の確認と必要に応じて個人指導をする。きちんと折り線のつかない Ya 子には手を取って手助けする。S 子の手助けをする。折り進めている K 助を認めて頭をなせる。Y 子に気をとられ K 助の折った結果が把握できていない。</p> <p>⑧保育者の席に座り姿勢を正して説明し、折り方の手本と折った結果を示す。集中力の持続しない K 男や Ya 子に声かけを頻繁にし、目を合わせる機会を増やす。気の散りやすい子どもの注意の持続のため非難にならないように明るく名前を呼ぶ。</p> <p>⑨立ち上がって子どもの作業を確認し、「ヘタ」の折り方の少ない子どもが多いことから、子どもたちの活動を一旦止めた上で席に戻って集中を促し、説明を補足する。再び巡回しながら子どもの言葉を受けることや簡潔に分かりやすい言葉と動作で結果を認める中で明るくリズムカルな雰囲気を作る。Ya 子の折り紙を手直し。</p>	<p>Ya 子、手は膝でも集中は散漫。</p> <p>⑦全員早速取り掛かる。N 子はやる前に隣の子を見て色紙の裏表確認し折り終わってまた確認。Ya 子は隣を見て待つ姿勢で自分でやろうとしない。子どもが「キュッキュッキュ」「ゴシゴシ」と言う。T 子は出来たらすぐさま手を膝にする。K 助は認められた後、自慢げに三角に折ったものを手に持って示す。Ya 子は指導後も折り線が甘く浮いてきても直そうとしないが手助けされるとやる気はある。</p> <p>⑧K 助は手を膝にしたが折り線が甘く浮いてくる紙をおでこや口で押さえている。Ya 子の指導を見て自分で手直しを試みるが手間取り保育者に注意を受ける。他児がお膝と答える。Ya 子はよそ見、M 子は折り紙を触っている。</p> <p>⑨いっせいに折り始める。「こんにちは」と口真似、「できた、できた、できた、できた！ 先生、こういうふう？ これでいい～、おにぎり！」などと言う。K 助も出来た。S 子など数人が「できた、できた、できた」と折り紙を持ち上げて笑顔で示す。</p>
---	---	---	--

<p>分で今あるべき姿を自覚できるような見本を示すことで自分から意識して気をつけられるようにする。</p> <p><b>説明③ (70秒)</b> 説明の前の姿勢を確認して全員の活動のリズムを整えスムーズな流れを作るようにする。 個人指導でも追いついてこれない子には一旦全員をまとめた後、全員に見聞きできるように何をしているか、こういうときどうしてあげればいいのか手本を示す。</p> <p><b>子どもの活動③ (35秒)</b> スピーディーで活気のある不雰囲気を出す。折るポイントとなる大切な作業は言葉も動作も強調する。</p> <p><b>Y子個人指導 (15秒)</b> 依頼心が強く日ごろから自分で取り組もうとしない態度が身についたY子は保育者の説明をきちんと聞かず隣の子どもや保育者の助けを待つ。</p> <p><b>説明④ (80秒)</b> 説明として動作で子どもと一緒にやって見ること、折る位置</p>	<p>⑩じゃ、次いきます。S子ちゃん、S子ちゃんお手てはお膝です…よ。見てごらん、お隣の…も～N子ちゃん先生してくれる？ N子ちゃんあんまりおしたくがきれいだからこれからN子ちゃん先生と呼びましょうかね～。</p> <p>さ、それでは…、Yu君もN子ちゃんみたいにお手ては～？…そしたら、今度は見て下さい。2つお首がこっくりこきましたら、1枚だけめくりましますよ。1枚だけ白い三角さんがこんなになっていますけれども、上に向けます。そしたらね～、グングングングンとひっくり返しますと、ここにさっき曲げた線がありますね。見える？先生ね、みんなの目がいいかどうかここにちょっと書いてみますよ。こうなりました。今曲げたこの線はさっきみんながこっち向けたとき曲がった線です。こっちのお顔を伸ばしますと…こう！だから、今度こっちから曲げます。あれ、こっちにも、こっちにも三角さん2つになったね～。(説明③)</p> <p>⑪さー、やってちょうだい。によっき、によっき、1枚だけが反対側に…アイロンをかけます。あ、すごい、Y男くん、賢いね～君は！</p> <p>あ、上手い。あ～、S男くんうまいな～。Ya子ちゃん、1枚だけ後ろ向き…。あ、K助くん、君は天才少年だ！ そう、上手だね～。そうです！ ま～、K子ちゃん、どうしてそんなに賢いんでしょう。まー、またまたN子ちゃん先生を見て下さい！ N子ちゃん先生がもうきれいにしていますよ。では、あんまりみんな速いですから青組さんみたい。次、もういっていいね？ 次、いきます！ (子どもの活動③)</p> <p>⑫Y子ちゃんはチョット悩んでいますね。Yこちゃん、三角伸ばしましたか？ これでいいのよ。はい、ひっくり返して、お好み焼きみたい。ここから曲げますよ。はい、曲～げて。はい、アイロンさんかけてごらん。はい、Y子ちゃんも上手。</p> <p>⑬次、いきますよ。アイロンさんかけるといよ。いまね、頭下げたでしょう？ 今度はこのお手て、こっちもこうなってるでしょう？ 今度は、このお手てをペタンペタンとやるの。やってみようか？ はい、せーの、ペタンペタン。じゃ、お手てお膝にして。じゃ、この色紙の手をね、グングングンこの白いところまで曲げます。まだよ、まだよ、よく見て、よく見てよ。そし</p>	 <p>⑩席に戻って姿勢を正し、全員に見やすく見本の位置と方向をまっすぐに調べ、折り方の説明と折った結果の見本の位置を固定して子どもが位置関係をつかみやすくする。また、全員が見本の折った形を確認できるようゆっくり回し、一人一人の視線を考えて正面から形が確認できるように配慮する。 目安になる折線はペンを使って書くなど把握しやすいよう工夫する。</p>  <p>⑪立ち上がり落ち着いた態度で接し、子どもが順番に見てもらえることを分かり待つことができる雰囲気を保つ。見て回る方向や順序をなるべく一定にし、声はかけるが必要以上に近づきすぎないように配慮し、子どもや作品にあまり触れないよう心がける。</p> <p>⑫一度着席するがYa子のため再び立ち上がり全員が見聞きできるように手をもって線をつけることを指導する。M子に近づき折り具合を折り紙に触って確認。</p> 	<p>Yaは不安そうにやろうとせず人待ち顔。</p> <p>⑩子どもたちは自らすぐ聞く態度が整う。S子は折り紙を触っている。M子は口元に手がいているが聞いている。N子は名前を呼ばれ手を膝にした。Ya子折り紙を触りだしたが、N子を意識し手を膝にする。子どもが「三角だ！ バッタみたい」と言う。</p> <p>⑪T子は周りを見て確認する。N子は戸惑いつつも折り始め、終わると再び隣を確認する。Ya子は戸惑った様子で手が動かさない。他児は自分で出来たか「先生これでいいの？ こう？」と保育者に確認する。全員手を膝で待つ。</p> <p>⑫Ya子は黙って保育者の手助けで手を動かす。他児は手を膝にしたまま様子を観察している。</p> <p>⑬姿勢を整えて集中する。子どもたちも同じ動作をする数人が自分の折り紙と見本を見比べる。K助は机に肘をつき辺りをキョロキョロ。K助は名前を呼ばれて保育者を見る。S子保育者と自分のものを見比べて確認する。Ya子見ていなかったが名前を呼ばれて</p>
---	--	--	--

<p>と作業を明確にし、子どもが体を動かすことで気分転換も図る。説明は常に着席して、子どもが落ち着いて見聞きできるような心がける。常に全員の子どもの視線を一人一人確認する。</p> <p><b>子どもの活動④</b> (60秒)</p> <p>一人一人が、説明を最後まで聞き自分で考えてやる雰囲気やリズムになれ意識して取り組む姿勢が見えてくる。折った結果を確認することができる。</p> <p>全体の指導で理解できない時は必要に応じて個人指導をするが他児に聞こえて作業のヒントになるようにする。</p> <p>—— 続く ——</p>	<p>たらここをアイロンさん、キュキュキュ。ほら、Y男くん、キュキュキュ曲げるの。さ、そしたら、こっち側もベッタンコしますから、グングングングン。今のところの、ここの白いところまで…あのね、三角さんのところはサンタさんのおひげです、おひげ。ここをお手で隠すんです。いい？だからここのサンタさんの下のところをお手で隠す。お手で恥かしい恥かしい…K男くん！そうしてアイロンをかけるんです。これでいいんです。よく見てください。Ya子ちゃん見た？見た、見た、見た、見たー！見たかな、見たかな、はい、やりましょう。(説明④)</p>  <p>⑭さ、やりましょー、さー、やりましょー。あ、上手い、まあ、上手ですね。お、賢いな。みんなはすごい。あ、もうできちゃった！あ、すごい。まー、おこーさん。なんて上手！ここまで、ここまで…そう、上手。T子ちゃん上手い。あら、すごいYa子ちゃんえらい！そうだよ、反対側もしてごらん。そう！でーきた、そうです！ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン。上手にできたね。そう、E子ちゃんここまでもうちょっと曲げてごらん。はい、反対側もね、やっごらん。アイロンさんかけてね。まだまだ、お手でここまで重ねるのよ。このお手でとこのお手でと…できた！おー、すごい、できたね。K助くんもやっご成功！ほら、E子ちゃんがE子先生になっちゃった。(子どもの活動④)</p> <p>—— 続 く ——</p>	<p>⑬折る位置を明確にするため自分の体を見立てて動作で説明する。動作は子どもを伴って繰り返す折り線をつけるなどポイントとなる動作を強調して示す。自分のあごに手を重ね、折り位置をイメージ化する。折った結果をしっかりと一人一人に示す。特に集中力の弱いYa子には強く名前を呼び見本を示した後見本を全員の目線に合わせて回す。</p>  <p>⑭子どもの前に留まらないよう歩きながら必要な子どもには頭をなせるなどスキンシップを図り一人一人ははっきり認め、直す点よりよいことの方を大きく表現をする。Y子・N子・S子・T子・E子・Ya子の頭をなせる。Y男の折るポイントを指で抑えて示し手助けする。E子の折り紙の手直しをする。</p>  <p>—— 続く ——</p>	<p>保育者を向き折り紙の形を確認する。Yu男ら3人が「みた、みた、みた」という。Yu男ら数人が「でーきた！でーきた！」と言う。</p> <p>⑭A子はしばらくみんなの様子を見てから折りはじめるが一人で理解できる。A子「これで大丈夫ですか？」と折り紙を持ち上げて保育者に確認。Ya子は初めて一人で折ることができた。出来たことで頭をなせられほめられると、言葉はないが上半身を揺らして喜びを現した。全員ゴシゴシ線を付け足す。</p> <p>—— 続く ——</p>
---	---	---	--

表2 実践記録Ⅱ

保育の流れ 及び所要時間	保育者の活動		子どもの姿
	言葉によるもの	行動によるもの	
(導入 65秒) 折り紙を配る (25秒)	①子どもは机の上に伏せ保育者は歌で子どもを落ちついた雰囲気をつくり折り紙で柿をつくることを伝え折り紙を配る。	①着席して説明し、子どもの正面から折り紙を配る。	①起き上がった子どもたちは全員手を膝にして保育者を見つめているが保育者の挨拶に反応しない。
説明① (75秒)	②じゃ、今からみんなでね、この柿ちゃんのバックを作ります。なんと、これからこれができます。お目のいい人、お耳のいい人よく見ててね！ まず、橙色が今度どうなるか見ててよ。ひっくり返し。チクチクちゃんとチクチクちゃん仲良ささん。遊ば、いいよ、かくれんぼしよう、いいよ。ぴったんこ。上手に出来たらこのまま抑えながらしっかりしっかりアイロンさん。あら不思議、ペタンコになったの。(説明①)	②着ているトレーナーの中から本物の柿と折り紙の柿を示し次に折り紙を示す。折り紙と折り上がった柿のバックとを交互に示す。 胸の前で折り方を示す。 机の上で折り線をつける方法を見せる。 折り紙は机の上に置いたまま手を触れずよく見る振りを示す。	折り紙をもらうと声にむらはあるが挨拶をすることが出来る。 Y子はほほ杖をしている。
子どもの活動① (60秒)	③はい、どうぞ！ そう、しっかり押さえないとヒョコンとお口開いてきちゃうよ。しっかり押さえて上手に出来たらお手でお膝でね。そうね、しっかりお手でアイロンかけといてね！ 強くお手で押さえてね。 はい、しっかり出来た人からお手をお膝でね。しっかり、しっかり出来た人からお手でお膝でよ。 そう、Y也ちゃん上手だったよ。お手でおひぎで待っててね。 そう、N子ちゃん、強いお目めだったね。 はい、出来た人からお手でお膝で待っててよ。 はい、Y也ちゃん上手だよ。はい、そのままお手でお膝よ。Y也ちゃんそのまま待っててね。 M子ちゃんもうできた？ そう、はい、ここしっかり押さえてね。はい。ほらきれいなお山が出来たよ。お口開いてくる人は駄目よ。お口開いてこないようにペタンコにしてよ、ペタンコ！ 上手だね、K男ちゃん。ほら見て！ お口開いてこない？ (子どもの活動①)	③立ち上がってまっすぐY子の席に行き、折り紙を押さえて手助けする。 腰をかがめて子どもの傍を巡回。 Y也の折り紙を押さえ手助け。 N子の折り紙を押さえ手助け。 Y也の声に振り向き折り紙を押さえ手助け。 Ym子の手助け。 A子の折り紙を押さえ手助け。 K男の折り紙を押さえ手助け。 Y子の折り紙を押さえ手助け。 M子の折り紙を押さえ手助け。 Y子の折り紙を押さえ手助け。 Y也の折り紙を押さえ手助け。 K男の折り紙を指差して認め皆により見本として示す。	②落ち着きのないY子は上半身を揺したり折り紙を触ったりする。 K男は説明の途中で手を出そうとするが気付いて止める。
説明② (45秒)	④じゃ、今度はみんなでご挨拶します。皆さんこんにちわ、皆さんこんにちわ！ バックみたいだったね。こんにちわってご挨拶したらしっかりまたお口が開かないようにしっかり…ヨイショ、ヨイショ。このようになりました。(説明②)	④椅子を引いて着席し手を膝にする大きなジェスチャーを見せる。 折り紙を胸の前に示しヘタの折り方の見本を實際頭を下げてみせるなどして示した後机の上で線のつけ方をみせ折った結果を示す。 K男の姿勢を確認する。	③全員すぐ折り始めるR男「こうやって…」と隣のN子に話しかけるがM子は応じない。 Y子は保育者が寄ってくると顔を見て手助けしてもらった後はよそ見をする。 Y也がアイロンを乱暴にパタパタ叩くようにかけ保育者がよってくると顔を見て手助けを受ける。 N子集中している。 Y也は保育者の手直しの後保育者に言われ手を膝にしていたが待つ間に姿勢が崩れ伸びをする。 K男は何度も折り直し丁寧に折っている。 Y子は体を揺らしたりきょろきょろした後肘をつきつめ嘸み。
			④みんな集中する。 Y子は保育者の説明を聞かないできょろきょろしたり机に伏せたりするが説明に入ると保育者の方を見て聞く。



<p>子どもの活動② (30 秒)</p>	<p>⑤はいどうぞ。 そうね、上手だよ。そうそうそう上手よ。 出来たらお手でお膝ですよ。 そうそうそう上手。こんにちわで上手よ。 そう、こんにちは！ できたね～。よし、 できた、上手いね！ はい、じゃあ、ピンポン！ もうあん まり○組さんが上手だから…いいよ、そ れでいいのよ。きれいに出来たよ。もう あんまり○組さんが上手だからまたひと つね…。Y 子ちゃん、今かっこいい！ 先生がお話始めるとピットなって上手だ ったね！ K 男ちゃんも出来た？ いいよ、 では、手はお膝にしてね。よし！（子 どもの活動②）</p>	<p>⑤Ym 子の近くに顔を寄せ折り 紙を指差し確認し認める。 Y 子の差し出す折り紙をみて指 差し認める。 A 子の折り紙を触って確認。 R 太、K 男の折り紙を指差し確 認で認める。 Y 也の折り紙を手直し。 子どもの様子を確認する。 自分の席に戻りながら気付いた M 子の席に近づき折り紙に触れ て確認。</p>	<p>⑤全員すぐおり始める。 Y 子が自分の折り紙を 示す。 R 男「こんにちは！」 と保育者に応答する。 K 男は丁寧に何度も確 認して手直しする。</p>
<p>説明③ (55 秒)</p>	<p>⑥今度はね！ お目めのいい人よく見て ね！ さっきこんにちわっていったらみ んなこうするでしょう？ これ1枚ね… スカートなの。スカートめくりしたら恥 かし、恥かし…恥かし、恥かし！ この1 枚のスカートは…白いスカートおいとい てね…この1枚だけめくれてきたのをヨッ コラショと裏返しにするにの。そしたら ね、スカートめくりをしたらひっくり返 し。あっかんべー、あっかんべー。あ っかんべーをしたらしっかりアイロンかけ てください。まだ見ててよ！ 後ろも… こっちにもスカート、こっちにもスカ ート、ほら。(説明③)</p>	<p>⑥着席し姿勢を正して見本を示 す。ヘタの上1枚を広げて見せ る。折ったり広げたりする。 大きく裏返す動作を示す。 広げておいたヘタを折り返す。 子どもが裏表の状態を確認でき るように示す。</p>	<p>⑥全員保育者を見る。 A 子が足をぶらぶらさ せる。 Y 子ひじを突いて聞い ている。 At 子と Y 也が顔を見 合わせて話している。 子どもたちはあっかん べーで喜ぶ。</p>
<p>子どもの活動③ (58 秒)</p>	<p>⑦どうぞ！ 1枚だけスカートめくりにしてね。ここ 揃えてね。そう、そうそう、揃えてね。 揃えてね。あっかんべー。 そう、上手いぞ。上手い、上手い。よし、 じゃあここね。アイロンかけたらいい。 よし、上手！ 上手い、上手い！ このと きは…こうして…これでよし。N 子 ちゃんできた！ そうそう上手！ 上手だな！ (子どもの活動③)</p>	<p>⑦常に子どもの巡回中は常に腰 を曲げ子どもの顔に近づけて対 応。 M 子の折り紙を押さえ手直し。 R 太の折り紙を軽く見る。 A 子の折り紙を軽く見る。 Y 子の折り紙を手直しし裏返 してさらに手直し。 即座に近寄り Y 也が手に持 って示した折り紙みを手 に取って折り線 を両面手直し。 K 男に近寄り手に持 った折り紙を触 って確認。 N 子の折り紙を 手直し。 再度 Y 子の手 直し。</p>	<p>⑦全員すぐ折り始める Y 子は折り紙を触 っているが折れな くてよそ見。 保育者がやって いるのを見てい る。 やってもらった 後をなぞった後 肘をつく。 Y 也が折り紙を 持ち上げ「先生 できた！」と示 し認められたが 待っている間に 机に寝そべる。 K 男も持ち上げ 「先生できた！」 と示す。 Y 也は体をくね くねさせる。 R 太が「できた！ 」と保育者に折 り紙を見せ「先 生どう？」「バッ タみたいになっ た！」と保育者 が気付くまで言 う。 Y 也が机に寝そ べる。</p>
<p>説明④ (30 秒)</p>	<p>⑧よし、これはね～、実はですね。サン タさんの顔なんです。サンタのおじ さんはこーんなおひげが生えてるでしょ う？</p>	<p>⑧席に戻って説明。 胸の前で見本を示し机において 両手で口を押さえてみせる子 どもと一緒に繰り返す。 胸の前で折ってみせ、線付けは 机の上に置いて強調して示す。</p>	<p>⑧保育者が「恥ずかし い」と口に手を 当てる と全員が真似を して口に手をあ てる。 At 子が保育者 の真似をして手 を伸ばす。 K 男と Y 子が説 明の途中で折り 始めようとする</p>



<p>子どもの活動④ (65秒)</p>	<p>お髭にね、あー恥かし、恥かし～。ちょっとお手でやってみて。恥かし、あー恥かしい。お手てをね、2つこういうふうにやってたの。はい、じゃ、お手でお膝！またみててよ～。こっちのお手て、これはこっちのお手て。(説明④)</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>⑨はい、どうぞ そう、白いところまでお手でもって行ってね。お手でこうしてごらん。あー恥かし～。お手で重ねてね、お手で重ねてね。はい、そういういよ。</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>さあ出来たら…あれ、Y子ちゃん…あれ…？アイロンかけたかな！ いいよ。 A子ちゃん、できた？ 上手いな○組さんは！ じゃあ、お目めいい？ お耳も大丈夫？ (子どもの活動④)</p>	<p>⑨Ym子の折り紙手直し。 A子の折り紙を軽く指差し確認。 Y子の折り紙手直し。 K男の折り紙を指差し認める。 Y也の折り紙手直し。 At子に声かけ。 Y子の折り紙手直し。 席に戻りかけて。 Ym子の折り紙手直し。 A子の折り紙手直し。</p> 	<p>るが保育者の言葉に気付き止める。 Y子が折り紙を触った後肘を突く。</p> <p>⑨Y子保育者が折った後を触っている。 Y也「先生こう？」と保育者の注意を引くと手助けされる。 Y也がAt子の折り紙を指差し世話をやく。 Y子は肘を突く。 K男がY子に話しかけるがY子はあまり話しかけない。</p>
<p>説明⑤ (90秒)</p>	<p>⑩い～い？ 今度は今お手でこうやってきたでしょう？ そしたら今度は、泥棒がやってきたの！ あ～、恥ずかしいと言っていたお手てをね、後ろにやりなさい！ こっちのお手ても後ろに…お手てをお背中中組みなさい！ こんな風にされて悲しかったんだけど、泥棒さんの言うことだからききました。い～い？ 見てよ。お手てを後ろにしないさい。1, 2, 3！ お背中の中組で…待ってね、さっきのところで、よいしょ！ 今度またさっきのお手てあるでしょ。後ろにやりなさい。お手てはお背中中組に持っていきなさい。はい、またこの子はお手てを後ろに持って行って、あいたたたたたた～。でもね、泥棒さんに言われるでしょう？ だから、しっかりまたお背中中組のところでね、お手てを組み合わせました。(説明⑤)</p>	<p>⑩着席する。 手を後ろに回してみせる立って背中中の状態を見せる。</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>胸の上でひっくり返して折る様子と机の上で線付けを示す。 折った後の形を見せない。</p> 	<p>⑩全員集中して聞くY子は肘を突く。 Y也はAt子の椅子に手を伸ばし触っているがやがて姿勢が崩れ伸びをする。 しばらくすると机の上の折り紙を叩いて遊び始めるが保育者が近づくと止める。 K男は半立ちになって首を伸ばして保育者の机の上を見ようとする。</p>
<p>子どもの活動⑤ (60秒)</p>	<p>⑪さあ、できるかな？ どうぞ！ 今度は裏側にしてね。</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>もうね、泥棒さんはこういいました。痛いよー、痛いよーって言うてるんだけどね。(子どもの活動⑤)</p> <p>—— 省略 ——</p>	<p>⑪K男の折り紙を押さえて手助け。 Y子は机の上で折り紙をいじっている。 K男は折り紙終わって手を膝にして待っている。 Y也の声に振り向き言葉かけ。 Y也は手助けされながら折る。 At子を手助けする。 At子をはめる。 R太からも催促されはめる。 Ym子の折り紙を手直し。 A子の折り紙を手直し。 K男の折り紙に手直し。</p>	<p>⑪K男いち早く折り始める。 R太は「ボクの…ボクの泥棒ね、一番ね、怖いんだよ」と言う。 Y子は折り紙を触りながらきょろきょろよそ見、保育者が手直しする間よそ見をし顔をこすったりやる気がなく保育者の声かけで線をこする。</p>
<p>説明⑥ 175秒 両サイドを中 に折り込む</p>	<p>⑫じゃ～、お背中中組でお手てが組めた？ あ～、怖い怖いな～と思ってたらナイフを持ったの。今度はこの泥棒さんが、</p>	<p>⑫着席し胸の前で見本示す。 折り方を繰り返し示し机の上で</p>	<p>⑫全員手は膝にする。 Y子はすぐ机の上で手を置いているが途中気付いて膝にするがすぐ肘を突く。 K男はほめられてもまた戻ってきた保育者に手直しされ手が出せず戸惑っている。</p>



<p>子どもの活動⑥ (135 秒)</p> <p>—— 続く ——</p>	<p>ここにねナイフ持ってたの。お手で伸ばしなさい。ピットやったらね、ここがナイフです。あいたた、ナイフだどうしよう！ そうだなこんなところにあると危ないからな。どうしよう！ いいこと考えた。あなた危ないから中に入りなさい！</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>アイロンサンはしっかりかけて…中を見てみようか？ ナイフが入ってるぞ。さあ、危ないナイフはお腹の中に入れて下さい。(説明⑥)</p> <p>—— 省略 ——</p> <p>⑬はい、どうぞ！ お腹の中に入れてくよ。お腹…そう、お腹の中に…お腹の中に入れてごらん。しっかり入れて、…待ててね Y 也ちゃん、じゃ、行くから、行くから待ててね (子どもの活動⑥)</p> <p>—— 続く ——</p>	<p>線付けの見本を見せる。 できた結果を示す。</p>  <p>⑬ Y 子の折り紙は引き取って保育者が折ってしまうが一部 Y 子に折り紙を押さえるよう促す。Y 也の声に振り向き手直し。</p> <p>—— 続く ——</p>	<p>⑬ Y 子は折り紙を机の上でいじっている。 K 男手を膝で待つ。 At 子、Y 也手助けされて折る。 Y m 子がほめられると Y 太は「ボクは？」と問いかけ認められて満足する。</p> <p>—— 続く ——</p>
--	---	--	--

表 3 実践記録Ⅲ

保育の流れ及び所要時間	保育者の活動		子どもの姿
	言葉によるもの	行動によるもの	
<p>Yu 子の姿から時間を示す ①～⑩まで (188 秒)</p> <p>①～④まで (58 秒) Yu 子が机を叩く</p> <p>④～⑥まで (30 秒) Yu 子が奇声を発する</p>	<p>①保育者の席には着席しない。K 子に個人指導をしてから K 男の席の前に移動して個人指導をする。</p> <p>②K 男ちゃん、いい？ (Yu 子に) できた？ 待ててね！</p> <p>③K 男ちゃん、い～い？ 見てよ、K 男ちゃん、おいしい柿つくるよ！ K 男ちゃん、K 男ちゃん！ 何でやらないの？ M 男くん、やるよ。K 男ちゃん！</p> <p>④ (K 子に) ひろげて～、お山の頂上に～ そうそう素晴らしいよ！ あ、M 子ちゃんも一緒にやろうか！ いい、K 男ちゃん…。</p> <p>⑤ (M 子に) それでいいよ、お山の頂上まで持って行って</p>	<p>①K 子の前でしゃがみ手を取って教える。</p> <p>②K 男の席の正面に移動ししゃがみこみ、K 男の折り紙を手に取り話しかける。 Yu 子の声が聞こえたので Yu 子の方に顔を向け言葉かけをする。</p> <p>③再び K 男に話しかけ、折り紙を続けるよう促す。 しゃがんだまま隣の席の M 男が見ているのに気づき顔を向けて言葉かける。</p> 	<p>①K 子静かに個人指導を受けている。</p> <p>②Yu 子・M 子・M 男は自分で取り組んでいる。 K 男はよそ見をしながら待っていたがそのうち上着のフードをかぶり始め、保育者が近づくとわざとの紐をもて遊んで保育者の対応に逆らう。 Yu 子が保育に「やれた！」と声をかけ、その後待つように言われて自分の折り紙を手に持ち見ている。</p> <p>③M 子、Yu 子、M 男が保育者の声に反応し K 男と保育者のやり取りを楽しそうに見ている。 M 子は一人試行錯誤している。 K 男は「もう、やらない！」「やだよ」などとフードの紐で遊びやる気が見えない。</p>

<p>⑥～⑦まで (15秒) Yu子は一旦落ちて座る。</p>  <p>あげて～、もって行ってあげて～、いいよ！もって行ってあげて～、いい？で、アイロンかけてあげて…。</p> <p>⑥K男ちゃん、やるよ。ひろげて～、つのひろげるよ。M男くんも、つのひろげてください！…できた！</p> <p>⑦(K男に)ここ持って…ここ持って、お山の頂上まで…頂上ここだよ、K男ちゃん、頂上ここ！お山の頂上まで登らせて上げないと…ヨイショヨイショ… で、アイロンかけるね！できた！</p> <p>⑧M男くんは、つのを広げてあげて、お山の頂上まで持っていくの。はい、そうしたらアイロンかけて下さい。アイロンかけるのよ。そしたら、反対側だよ。そしたら、今度はつのを広げてあげて～…</p> <p>⑨K男ちゃんこれでいい？いい？まだつのでてるよ！おいしい柿できないよ。つのがでてるよ、これ見て！(K男に)うん、あれ作ってるんだって！いい？K男ちゃん、M男くんもやるよ！つの持って、つのも持って頂上まで登らせてあげよ。そうそうそうそう。はい、広げて、広げて、広げてからお山の頂上に登らせてあげよ。登らせてあげよ。そうそうそうそう。はい、登った？アイロンかけていいよ。おいしい柿できそう？</p> <p>⑩それでは、かきの葉っぱの色をぬるのでクレヨン出して下さい。</p> <p>—— 省略 ——</p>	<p>④K子の前に移動ししゃがみこむ。 K男の前に戻って再びしゃがみこむ。</p> <p>⑤その場からM子に顔を向け、折り紙に手を添える。</p>  <p>⑥再度K男の前にしゃがみ込んで個人指導を続ける。 保育者はYu子たちの遊びを放任。</p> <p>⑦やる気のないK男を促し保育者が折り紙に手を添えるようにして折り終える。</p>  <p>⑧隣の席のM男に体をねじって手助けする。</p> <p>⑨一向にやる気の見えないK男を促して折り紙を手助けする。</p>  <p>⑩よそ見するK男を促し折続けるよう手助けする何とか全員折り上げたので次の作業の指示をする。</p> <p>—— 省略 ——</p>	<p>④K子「分からない～」と保育者に声をかける。 Yu子は柿を折り終えてしまってもて退屈そうに折り紙を唇でもて遊び待っている。 K男はフードをかぶり続け独り言のように「なにやっただよ～」。</p> <p>⑤M子は手を添えられて作る。 Yu子は机の上に寝そべっている。M子はできた折り紙をY子に見せる。 Y子は再び机の上に寝そべって手の平で折り紙をパンパン叩き出した音の面白さをM子に伝える。</p> <p>⑥K男はフードははずしたが机の上にはほほ杖をして前方を見ている。ずっと待っていたM男は「はい」と答える。 M子はYu子に同調しパンパンと机の上の折り紙を叩き始め、K子もYu子・M子に同調し音は大きくなり楽しそうにリズムを揃えて叩き続ける。</p> <p>⑦K男は保育者に促され少し折り紙に手を添えるができると女児の机たたきのあそびに参加。 Yu子は立って声を出しながらリズムを取って体を大きく左右に揺らす。さらにY子は体を激しくゆすりながら「イエイ、イエイ、イエイ、イエイ、イエイ！、イエイ、イエイ、イエイ、イエイ、イエイ！」と奇声を上げ、しばらく続けると自主的に止める。 他児は見ているが同調しない。 M子は途中で折り紙に視線を戻す。</p> <p>⑧K男はほほ杖をしながら「え、何で？」 Yu子椅子をカタカタ揺すり始めるが他児は同調しない。</p> <p>⑨K男はよそ見をして「あ、紙の柿がある！」 K男「こういうふう？」 Yu子、椅子の音を立てることを自主的に止める。</p> <p>⑩子どもたちは棚から道具箱を取りに行く。</p> <p>—— 省略 ——</p>
---	--	---

#### IV 考 察

保育は、子どもの特性や個性、能力などを把握した上で、明確なねらいの元に、保育者が効果的な教材と環境の構成を整えることによって展開していく。したがって、それらを見極める保育者の感性と、実践力が重要となる。折り紙は、古来から伝わる日本独特の文化で、子どもに身近な遊びの一つである。入園前から親しむ機会もあり、多くの保育現場にも折り紙を楽しむ子どもの姿が認められる。折り紙は、伝承文化を伝えるという側面も大切であるが、子どもの手・指の運動機能を育て1枚の紙からあらゆる形を作り出すことも楽しめ、いつでも、どこでも大人から子どもまで、誰とでも遊ぶことが出来る。また、試行錯誤を繰り返し、何度でもやり直すことができる上、手軽に変化する興味深い素材であることから、様々な子どもの発達を期待することが出来る。また、聞いたことを理解し正確に折ることが出来れば誰でも同じ形を手にする事が出来る。したがって集中力を強化し、思考力も高めることが期待される。しかし、教材はどの教材も例外なく、扱う方法により問題も生じることは否定できないし、折り紙も他の教材と同じく使い方が重要である。折り紙を折るだけで子どもの発達は期待できない。保育者は、折り紙のもつ特有の教育効果を研究し、幼児の発達段階に応じた保育者と幼児の間の媒体として有効に活用できる実践力を見に付けることが求められる。そこで、実践例から3歳児22名を3グループに分けて3人の保育者がそれぞれ保育した記録から、考察を試みる。

##### 1. 保育の流れ及び所要時間

折り紙のように非常に集中力が要求される活動の場合は、特に説明時間を簡潔にし、見本などを使って明確に説明することが重要であり長すぎたり複雑な言葉やものの引用は子どもたちを疲れさせてしまう。そこで、グループⅠ(子ども10名)の場合では、折り紙を配るは30秒、説明①10秒、説明②45秒、説明③70秒、説明④80秒、説明⑤125秒に対して、グループⅡ(子ども7名)では、折り紙を配るは25秒、説明①75秒、説明②45秒、説明③55秒、説明④30秒、説明⑤90秒、説明⑥175秒に対して、子どもの活動はグループ

Ⅰは、活動①40秒、活動②20秒、活動③35秒とYa子の個人指導15秒で50秒、活動④60秒、活動⑤55秒である。グループⅡでは、活動①60秒、活動②30秒、活動③58秒、活動④65秒、活動⑤60秒、活動⑥135秒となっている。ここから見ると、グループⅠはグループⅡに比較して「説明」に時間がかかる傾向があるが、「子どもの活動」では10:7という子どもの人数から考えても、グループⅠに比較し、人数の少ないグループⅡの方が時間がかかる傾向が見られる。また、グループⅢでは5人の子どもの活動に188秒以上の時間を両端を中心に折り込むという活動で費やしている。

##### 2. 保育者の活動と指導法

###### (1) 説明とイメージ

作品づくりの工程を説明する場合、その形状や作業を子どもの身近で親近感をもてるものに例えて説明することが多い。そうした説明に用いるイメージ作りにどのような言葉を用いているのか調査する。

グループⅠでは、本物の柿からバックに移行し、三角形に折った形を「体」に見立て、一辺を顔・頭として、「ヘタ」に折ることを挨拶をすとした。そこで、できたヘタ用の三角を「顔」に見立てたが、折り曲げる量が少なかったことから、さらに大きく折るおすための形や大きさを「おにぎり」というイメージづくりで指導している。次に、2枚重ねて折っておいたヘタの1枚を裏に折り返すことで色紙の裏が見えて白い三角となったことから、その白い三角を「サンタの顔や髭」に見立てている。前述したように、三角を体に見立てていたことから残りの2辺を手に見立て、サンタの髭の末端を目印に手を重ねるという説明で折り曲げるよう働きかけている。そして、手を後ろに曲げると説明しながら同じところを裏側に折り返すことで、内側に折り込みやすくする為の線をつけるよう指導している。また、ここでは記録を示してないが、バックのマチを作るため内側に織り込んだ後、柿の両角の形を整えることを鼻をつまむという方法で導いているがこの辺りの説明は3歳児には複雑であり、もう少し簡略な方法を研究し改善することが求められる。指導の特徴とし

ては、肯定的な言葉かけ、語尾を延ばさない言葉使用で、全体の保育の流れが止まらないよう心がけ、特に流れに乗れないYa子には、全員の注目する中で個人指導していた。また、説明のたびに全員の集中度に留意し、散漫になっている子どもには一人一人の子どもの名前を呼ぶことによって集中することを繰り返し、折り紙を進める中で子どもに聞く態度が少しずつ身につくよう配慮している。

グループⅡでは、グループⅠの実践を見学したことで説明が類似した面もあるが、やはり実物の柿を用いて、そこからバック、折ることを「かくれんぼ」と説明し、三角をお山に見立てたが、「ヘタ」に折ることを「挨拶」と説明し、折った後その形を「スカート」と読み替え、1枚裏に折り返すことを「スカートめくり」や「あっかんべー」とし、ここでできた形改めて「サンタの顔」に見立てている。そして、そこを目印にして両サイドを中心に折ることを示唆し、次にそれを同じように裏側に折り直すことを「泥棒に手を後手にされる」と説明している。さらに、そこを内側に織り込み柿のバックのマチにすることを「泥棒が持ってたナイフをしまう」と説明するなど、イメージをめまぐるしく変化させている。指導の特徴としては、肯定的な言葉かけと共に、説明のたびに全員の作品に触れ何らかの手助けをしていくことが目立つ。ここで見られるような説明の方法は、その場の形ばかりに捉われ、イメージがその場の思いつきで唐突にならないよう注意しなければならない。そして、子どもが混乱しないように前後のつながりを考えた自然なストーリー性を組み立てるなど、子どもの興味を深めながらイメージの広がり描けるよう工夫することが大切である。

グループⅢでも、本物の柿から進めていたが、三角の両辺を「つ」に見立てて説明し、折っておいたヘタを目印にして折り込み、そこから柿のバックのマチを作るために内側に折り込むことを「山の頂上につのを登らせ」て、おいしい柿にすると述べたりヘタを「葉っぱ」と説明しているが、子どものイメージを広げ、やる気を引き出すような雰囲気作りが出来ず、単に折る作業という傾向が強い。

## (2) 子どもと保育者の位置関係

グループⅠでは、説明をするときは必ず保育者の席に戻って着席して説明することを繰り返し、落ち着いた雰囲気で作ることににより聞く態度を引き出している。その後、子どもの傍を巡回して個人指導をするが、子どもの活動をよく観察して、不必要な援助をしないよう注意し、必要以上に子どもに近づいたり、同じ子どもの場所に長く留まらないよう配慮している。さらに、子どもの体や作品などをむやみに触れないよう気を配っている。子どもへの直接的援助が過度になると子どもの依頼心を強くし、自立心の妨げになることから、子どもの個性や発達をよく把握して不安な気持ちには配慮しながらも距離感を保つことに重点を置いている。子どもの能力や特性によっては、スキンシップや折りやすいよう一部を抑える、折る場所を示す、目の前で見本や折り方を示すなどの援助をし、必要に応じて作品の手直しも最小限行うことも必要である。しかし、こうした行為は、子どものやる気や自信を失わせてしまわない程度を心がけ、個々の子どもの能力を考えて慎重に行いたいものである。このクラスの子どもたちは、全体的に甘えの強い傾向が見受けられることから、ほめ言葉やスキンシップなどによって認めたことを明確に示すことで、見たり聞いたりして、自分で考えればきちんと形が出来ることを子どもたちが経験から気付いて身につくような指導を行うことが重要である。

グループⅡでは、保育者はやはり説明は自分の席に据わって落ち着いた雰囲気で行っている。しかし、子どもの傍を巡回するとき、言葉とは裏腹に子どもや作品に触れる指導が目立つ。担任ゆえ子どもの能力に気遣うあまり、状況を観察しないですぐ理解力の乏しいY子の傍に直行して指導するなど先走った行動が目立つ。こうした援助が繰り返されることにより、Y子はさらに自分で考えたりやろうという意欲が現れなくなっている。同様に、巡回時での担任の姿勢が常に腰をかがめて子どものすぐ傍に顔を寄せ、子どもの作品に触ることが頻発している。したがって、どの子どもも次第に受身の姿勢が強くなり、自主性が乏しくなっている。このクラス全体に、子どもたちの依頼心が強い傾向はこうした担任の関わりの中で身

についていくことが考えられる。

グループⅢでは、子どものやる気を引き出せないまま完全な個人指導となり、全く全体を把握することができない。その大きな要因は保育者の言動によるものが大きい、語尾にしまりのない声の出し方や言葉使い、特に、同じ子どもの前にしゃがみ込み、本人の心情や意欲に配慮することなくただ作るという結果にこだわっている。また、他児への対応も同じ位置から指導し、つくって待っている子どもへの配慮や関わりはほとんどなく、質問の対応に向いた時もすぐ戻るなど、結果的に一人の園児に付き切りの指導となっている。その結果、本来やる気になれば出来る K 男にも、我がままを増徴させ意欲を失わせる結果ともなっている。

### (3) 子どもの姿

グループⅠは、保育者が語尾や言葉の使い方のメリハリを持つことで、子ども全体でしっかり最後まで見聞きすることを繰り返し指導している。子どもたちは次第に全体の聞く態度が整い、聞く・折るのリズミカルな流れを引き出した。「子どもの姿」の②⑥に見られるように後ろを見たりして集中が散漫な Ya 子は、折方の説明や活動に対して、⑦⑧⑩の姿で見られるように隣を見て待つ姿勢や不安そうに人待ち顔、戸惑った様子で手は動かない様子などが見られ、保育者の指導後も自ら取り組む意欲は乏しく促されるとやる姿勢が身についていた。そこで、「保育者の活動」⑧⑩⑬⑮⑰⑱では、説明の中で Ya 子など集中力が弱い子どもの名前を呼び注目を促すことを繰り返し、1 度の指導ではやりきれない場合は保育者の活動が全員に分かるように示して注意を引き付けながらしっかりと向かい合って援助することを心がけた。それは、「保育者の活動」の⑦⑫の様に Ya 子の折るポイントを示しながら手を取って具体的な折り方の方法が会得できるよう手助けし、⑨のような言葉かけを続けることにより、「子どもの姿」⑫のような保育者の手助けで手を動かすようになっている。さらに、⑬で名前を呼ばれて見本と説明に注目したことで、⑭のように始めて自力でできたことを自覚し、体全体でその喜びを表現している。それには、「保育者の活動」⑭での明確な賞

賛の言葉と頭をなせて認める行為が援助となり、本人に自覚を促したといえる。しかし、K 助の場合は、「子どもの姿⑧」のように線が折りきれしていない本人の気苦労を見過して十分な援助が出来ていない。この点については、いかに全体把握に注意が必要かを確認させられる。

グループⅡでは、担任であるが故に子どもと馴染んでいることから、先入観が働き、子どもの発達の不十分な側面を先回りして担任が補うことで解決しようとする面がこの記録にも現れており気がかりである。説明のたび巡回する中で、子どもの作品を触ったり手直しを繰り返すことで、次第に子どもの依頼心を引き出し受身的な姿勢が現れてきた。特に、「保育者の活動」の「行動によるもの③⑦⑨⑩」の Y 子や Y 也などに対する関わりで「子どもの姿」②で集中力や持続性の乏しい Y 子でも④では集中しないなりに説明を聞こうとする態度も見受けられる。しかし、Y 子への手直しが繰り返されることでさらに自分でやろうとする姿勢がなくなり、よそ見などして保育者を待つ受身的な姿勢が強化されている。また、Y 也は落ち着きのない子どもではあるが、③で見ると折り紙の扱いが乱暴で気がかりではあるが、自分なりにつくろうとする意欲も見受けられる。しかし、④では待たされることと直されることで次第に伸びをするなど散漫な様子が見られ、⑦では折り上げて保育者に差し出した作品を担当が受け取って手直しするなどからか、机に寝そべったり机の上の折り紙を叩き音を立てて遊ぶ姿も現れている。このように Y 子や Y 也だけでなく、担任が子どもたちの能力を意識し、結果を気にするあまり、個々の子どもの発達に対する適切な援助が行われず、さらに不適切な子どもの態度を増長することにつながったと考えられる。

グループⅢでは、「保育者の活動」の「行動によるもの」の①②のように、保育者が進行の遅れた子どもの前の床にしゃがみ込み、付きっきりでの個人対応に終始し、けじめのない言動で「子どもの姿」の②③の K 男のように真面目に取り組む姿勢を引き出せず、かえって⑧⑨のように悪ふざけをするようになり子どもに振り回される結果となった。保育にしまりがなくなると、直接指導している子どもだけでなく、他児からも自分勝手

な活動を引き出してしまふ。ここでは、きちんと努力する子どもたちを放置し長く待たせることになった結果、④のYu子が⑦⑧のように机や椅子などで音を立てたり、奇声を発する行為や子ども同士の連鎖反応を引き起こすなど様々な望ましくない言動を引き出すことにつながっている。しかも、たった5人を対象にしてさえ保育者はそれらに気付くことも出来ない。こうしたことは全体を把握できずその場の目の前の状況しか把握できない視野の狭さや子ども理解の甘さを示していると考える。

## V 終わりに

保育者は、今後さらに深い子ども理解や保育の方法を身に付け、個々の子どもの能力に対応できる柔軟で応用性のある実践力の強化を目指すことが必要である。今回は、保育者の実践とそれに対する子どもの姿、折り紙の指導結果などから考察したが、様々な実践の場面における子どもの姿の読み取りと保育者の援助との関わりについて比較することで教材の役割と保育者の実践力を研究ことに更なる意欲を持った。保育がどのように展開が出来るかと言うことばかりでなく、重要なことは子どもの姿の変化からその教育効果を見届けねばならない。保育によっては、その子の持っている望ましくない面を増長させ、かえって悪い習慣さえ身に付けることに注目せねばならない。保育には子どもをあきさせない流れをつくり、リズムとスピード感を持たせ、ねらいに見合った効果的な教材を選択ができることが必要である。「柿の折り紙」における子どもの作品に見るように、折り紙の作品を評価する場合、多くの評価はグループⅢの「実習生の作品」をよしとする関係者が多いのに驚く。保育は子どもの発達をとらえ様々な教材を媒介にしてクラス全体として、また、個々の子どもの個性などを考慮し全人的な発達を支援することが求められる。それならば、何故折り紙にまで自由奔放な結果をよしと捉えるのであろうか。折り紙は見聞きしたことを正確に再現することで誰でも同じ作品を手に入れることが出来る教材である。1枚の紙から無限に広がる折り紙ではあるが、それには基本の折り方の習得と幾つかの経験、子どものしっかりとした集中力や理解力が

大切である。自由で奔放な創造性や伸び伸びとした想像力というねらいがあるならば、空き箱でも新聞紙、砂、粘土、絵の具など様々な他の教材を選択しダイナミックに活用すべきであろう。どんなねらいでどの教材を媒介にするのか、その教育効果を十分吟味した上で実践法を研究し、保育のねらいを達成できるようにすべきである。折ってつくることができた達成感は友達と同じように自分にもできた子どもの意欲や自信を持つきっかけとして説得力がある。また、新たな創造意欲へ促すことも出来るし同じものを手にした友達との共感から親近感を強めることにもなる。しかし、基本を習得した後、その経験や形を使って自分なりの作品に発展できるよう導くことは忘れてはならない。筆者は、1998年に、カナダバンクーバーで幼稚園児に折り紙を指導した経験がある。漠然とつくっていた造形遊びが主流の子どもたちに折り紙を指導できるチャンスが与えられた。そのときは担任の意向で4～5人のグループで行ったが、子どもたちから思った以上の積極的で意欲的な態度が引き出せた。また、他校では信頼関係を結べた担任にクラス全員での折り紙指導を許されたとき、27名中13名が英語を理解できない子どもたちであったにもかかわらず、誰一人拒否することもなく指導し終えることができた。全員が床に座って取り組み、筆者のおぼつかない英語の説明に耳を傾け、結果的に全員が新聞紙で実際にかぶれる兜を手にすることができた。出来上がった兜は、その後、子どもたちの発想によって絵の具や紐、貼紙などそれぞれのアレンジによる楽しい個性が見られた。その様子を観察していた担任から「今まであの子にあんなに集中力があるとは知らなかった。いい勉強になった。」という言葉をいただいた。この経験から折り紙のすばらしさを再確認することになった。個々の子どもの発達に配慮することで、子どもが見聞きしたことをきちんと理解できれば誰でも表現できる折り紙は、子どもならずとも外国の人々に紹介するたびに幾度も「マーボラス！」と感嘆を受けたことも強い印象となり、海外に行くたび、折り紙を日本の伝統として誇りをもってさらに紹介するようになった。今後はさらに子どもたちにも指導法を誤らぬよう慎重に保育を計画し、豊かな子どもの発達に活用



できるよう、学生に指導したいと考えている。

**【引用・参考文献】**

1. 保育用語辞典 森上史朗他 2004. ミネルヴァ書房 p. 100
2. 現代保育用語辞典 岡田正章他 フレーベル館 1997.
3. 最新保育資料集 幼児保育研究会 ミネルヴァ書房 2005.
4. 稚園教育要領解説 平成 11. 文部省 フレーベル館
5. 長根利紀代「保育実践における子どもの発達と絵本の活用についての一考察」名古屋柳城短大学紀要 第 27 号 2005 年 p. 69～81

## Use an Origami for The Child's Development — A Perspective on the Professional Ability of Nursery Teachers —

Nagane, Rikiyo\*

保育者は、クラス運営を全体的な視野に立って進めながら個々の子どもの発達を多面的に援助していくことが求められる。保育のねらいを達成できる適切な教材を選択し、効果的な媒介として活用できる実践力が問われるのは当然である。子どもたちが集団生活を経験する中で様々な生活の基本を身に付け、能力を伸ばせるように援助するためには、その教材の持つ教育効果を正しく把握し、指導法を工夫しなければならない。折り紙は1枚の紙から様々なものが発想できる子どもに身近な遊びであり、高い集中力と理解力、正確性が求められる。保育者が子どもの発達を把握した適切な指導が実践できれば、どんな発達にある子どもであっても誰もが同じ形を手にすることができ、「みんなと一緒に」という喜びや達成感も味わうことも出来る。また、そこから、個性によって発展や応用に導くのも大切である。自由や創造性を求めるなら折り紙よりも他の効果的な教材を選択する方が効果的であろう。どんな教材活用にも自由奔放な結果ばかりをよしとする評価には疑問を感じる。折り紙は、保育者にとって自分の実践力を見せ付けられる緊張感のある教材であろう。しかし、折り紙は集団生活における子どもの集中力を育てる点において非常に効果的な教材であることからその指導法が重要である。

キーワード：子どもの発達, 折り紙, 保育者の活動, 教材活用, 保育実践力